

# 町内統一の情報活用をコーディネートする ICT 支援員の活動

東みよし町教育委員会学校教育課 学校 ICT 教育支援員 谷藤 裕美, 東みよし町立足代小学校 副校長 中川 斉史  
 キーワード: ICT 支援員, 地域カリキュラム, タブレット活用, 情報活用能力

## 実践の概要

町内全ての 5・6 年生が、地元の特徴ある事物について取材した冊子を作り、観光施設などに提供した。活動の実現において、町内を巡回型で回る ICT 支援員が、各担任のサポート、進度を揃えるためのカリキュラムコーディネート、ICT 活用の具体的活動を支援した。

### 1. 目的・目標

この実践では、町内 4 つの小学校がだいたい同時期に同じ総合のカリキュラムを実施する事になるので、互いにどんな進捗状況かを絶えず確認することが必要である。そのため ICT 支援員が巡回する基本の曜日に合わせて、それに関連する授業を行うようにした。また、授業の進め方や提示する教材などを ICT 支援員が伝え各校の授業内容に、学校間の差がでないようにすることを目標とした。

#### (1) システム

取材の際は、子供達は 8 インチの Android 端末を全員が持ち、取材に関する写真を撮影し、これらの写真をどの学校からでも見ることができるよう、Google ドライブを利用した。写真と文章はジャストスマイル（発表名人）を使って作成する。

#### (2) 町内統一の年間計画

本実践は表 1 のような町内統一のカリキュラムで行われており、町内の学校を巡回型で回る ICT 支援員が、担任のサポート、活動進度を揃えるためのカリキュラムコーディネート、ICT 活用の目標達成のための具体的活動を支援した。

表 1 町内統一の年間計画（5・6 年生）

実施月	地教委・ICT 支援員	各学校担任（ICT 支援員伝達内容）
5月	・タブレット仕様検討 ・G Suite for Education契約	・各校への準備説明 ・年間計画提示
6月	・カリキュラム策定	・地域おこし協力隊の方の各校訪問 ・冊子分析手法伝達 ・地域に関するブレインストーミング ・取材先決定
7月	・入札	
8月	・物品購入 ・端末設定	
9月	・G Suite for Education設定	・校内での取材練習開始 ・タブレット操作に慣れる活動
10月		・G Suite for Education操作法伝達 ・取材計画 ・取材開始（写真・動画） ・編集作業
11月	・マッシュアップ作成	・レイアウト校正 ・動画ナレーション作成 ・原稿校正
12月		
1月	・冊子原稿印刷 ・マッシュアップ制作完成 ・成果発表会計画	・発表原稿作成 ・発表練習
2月	・成果発表会	・成果発表会

## 2. 実践内容

### 2.1 各学校での取材に関する ICT 活用

取材の際には、Android 端末で写真を撮影し、各端末を学校に持ち帰った後、撮影した写真を選択し Google ドライブへ保存する方法を子供達全員に伝え、取材から帰ってきたら順次写真をアップするようにした。校内 Wi-Fi を使い時間差でデータがアップされる。

このドライブはクラウドのため、ICT 支援員がどの学校にいても見ることができるので、それぞれの学校の進捗状況が分かり、次の授業の進行の計画を立てるのに役立てたり、授業者からの相談を受けたりする際、大変有効に利用できた。

### 2.2 冊子編集に関する ICT 活用

取材の後撮影した写真を冊子にまとめる作業を行う。写真と文章はジャストスマイルを使って作成する。文章は縦書きで、使用した写真には必ずキャプションをつけることを約束し、写真 1 のように、特に写真の大きさやレイアウト、余白の空き方などに工夫をさせた。そのために、機内誌などの実際の記事を分析し、お手本とすることで、文章を呼びかけ形式にしたり、第三者の視点で書いたりするなど、レイアウトだけでなく、文章の書きぶりにもこだわることになってきた。



写真 1 レイアウト編集作業



写真 2 各校で作成した成果物（冊子）

繰り返しになるが、これらの活動は4校全てでおこなっているため、授業の進め方や提示する教材などをICT支援員が伝え、写真2のように、出来上がる冊子のクオリティに学校間の差がないようにすることができた。

## 2.3 成果発表会に関するICT活用

4校で実施したこの活動の最終形として、写真3のように町内全ての5・6年生が集まり、町民や保護者に対する成果発表会を行った。全体会での代表プレゼンや、学校毎のブースでのプレゼンなど、全員がプレゼンを作成し、操作・発表を体験した。プレゼン操作に関しては、写真を中心とした説明文章を作成することと、原稿を覚えずに、話し言葉とすることなど、情報活用能力を意識した発表の機会とした。

実際に発表するという場面を意識させることと、他の学校の発表の準備の状況をICT支援員が伝え、具体的指導のレベルを各担任に伝えることで、どの学校でも同じように、プレゼンに関する情報活用能力の指導ができ、それらを生徒に身に付けさせることができた。



写真3 町民への成果発表会

## 2.4 巡回型ICT支援員の具体的活動

一般に、ICTを使った実践では、担任の活用状況に差があり、十分な活用ができていないことも多いという現状がある。それらを解消するためのICT支援員の配置であるが、多くは授業準備や機器メンテナンスなどの業務が多いようである。

しかし、本町のような巡回型のICT支援員配備では、表2のような町内統一のICT活用のカリキュラムが機能しているので、本実践のような年間を通しての新規カリキュラムのコーディネートが可能となる。

町内統一のICT環境があり、それらを使う必然性を地域の学習単元として、教育委員会等が支援・準備し、各学校の5・6年生の子供達に活動させる。各担任は、ICT支援員とTT (Team Teaching) を組んで授業をするので、情報活用能力を指導するための教員研修としての隠れたカリキュラムが位置付いているともいえる。

これらの活動は、他地域においても、区域内全ての小学校の取り組みとして、統一した学習として実施可能であり、今後も継続的に実施できる。そして、これらは表1に掲げたようなモデルカリキュラムとして、様々な地域へ普及できるのではないかとと思われる。

表2 巡回型ICT支援員の業務

ICT支援員の業務(抜粋)
新規赴任職員への個別研修(職員)
情報セキュリティ研修(職員)
キーボーイ登録準備
ローマ字入力指導(3年生)
修学旅行・宿泊活動・社会見学のみまとめ指導
コンピュータペイント指導
プログラミング学習指導
クラブ活動支援
情報モラル指導
統合型校務支援システム管理
ネットワークトラブルシューティング
外部(弊社・入札・町情報ネットワーク部署)との連絡調整

## 3. 成果

実際に関わった5・6年生の担任からは、「この事業をやり出して、いろいろな印刷物のレイアウトや余白の空け方、写真の構図などがとても気になるようになってきた。」という声がよく聞かれるようになった。

また、その後の学年通信では、行間をしっかりと空けていたり、写真にキャプションを付けるようになったりして、表現の方法が大きく変化した。このことから、この取り組みが、教職員のICT活用能力を高度化させ、発信のための技法やメディアの特性について体感することができたといえる。同様のことを生徒に質問をすると、レイアウトや写真に関して、「とても気になるようになった・まあまあ気になるようになった」という回答が、85%を占める結果となり、学校間の数値の差もほとんど見られなかった。

このことから、巡回型ICT支援員がICT活用に関するカリキュラムを位置づけて実施することで、同一地域の子供達や教職員のICT活用能力の差を少なくし、それらを一定のレベルにすることができるのではないかと考える。

## 4. 今後に向けて

ICT支援員はこれまで、校内のICT機器活用に関して、教職員や児童生徒を支援するというイメージが強かったが、この事例のように、その地域の共通の情報活用能力の育成に関する、共通のカリキュラムをコーディネートする役割が重視されるようになる。

小中学校の場合ICT機器の整備が、設置者である各市町村教委で計画されることを考えると、市町村教委に属するICT支援員が各校を定期的に巡回し、各校の児童生徒や教職員に対して、ICT活用のコーディネートを行うことが、ICT機器の整備計画を最適化することに有効であるといえる。そういったことから、専門職としてのICT支援員に期待される役割は今後ますます重要となると思われる。